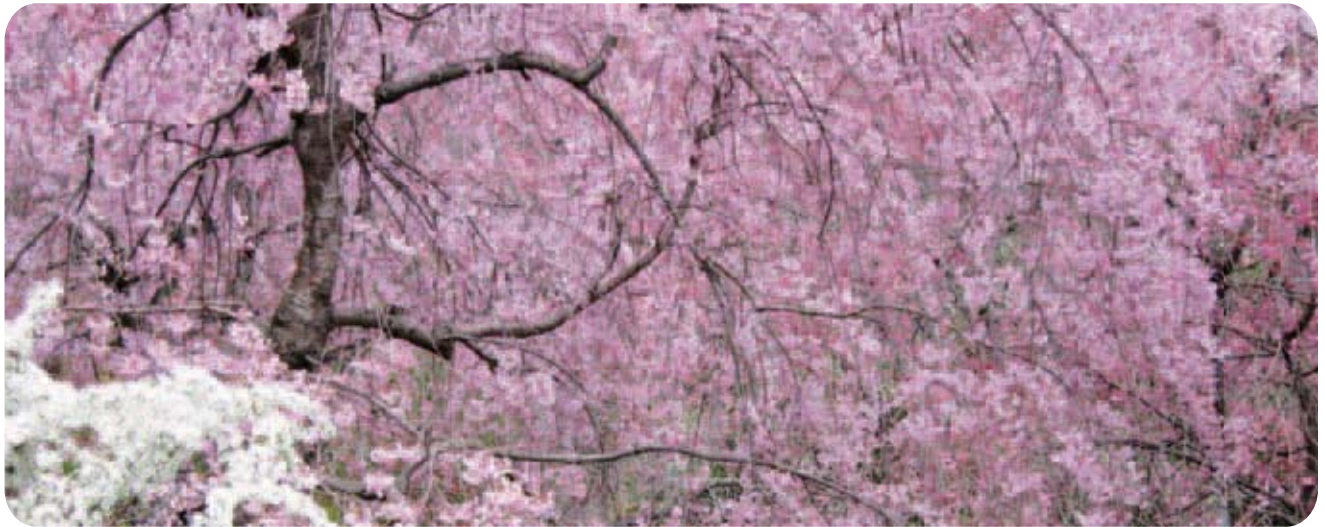


NICE SMILE

2014
春
VOL.57

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター●院外・院内広報

発行・責任者：広報誌編集委員会委員長 森朝 紀文 / 〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の23 TEL072-469-3111(代) FAX072-469-7929
http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/



京都府洛北 原谷苑にて撮影



南泉州地域全体で支え合う 医療連携の実現に向けて

病院長 伊豆蔵 正明

皆様には平素より、りんくう総合医療センターの診療ならびに運営に御協力いただき、誠に有難うございます。

平成26年度を迎え、4月には当センターにも医師32名を含め、約90名の職員が新たに入職致しました。全職員の1割以上が交代したことになります。経験年数は様々ですが、速やかに研修、教育を行い、若い人も出来るだけ早く一人前に診療に従事できるようにしたいと思います。

さて南泉州地域では、従来より地域医療連携の重要性が認識されていますが、4月に行われた診療報酬の改定でも、地域完結型医療を重視する方針が示され、具体的な指標も盛り込まれております。さらに医療法の改正で、病院の病床機能の分化・連携が推進され、その報告制度も始まることになりました。この様な大きな変革の中で、ますます地域全体で円滑な連携が出来るシステム作りが必要となって来たと言えます。昨年10月より試験運用を行ってきた診療情報ネットワークシステム(なすびんネット)も、本年4月1日より本稼働を開始致しました。現在、新たな参加施設に登録していただき、順次機器の設置等を進めております。今後、多くの医療機関の方々に参加して下さり、患者様に有益となるよう診療情報を共有するだけでなく、医療機関同士の連携に種々の形で応用できるのではないかと期待しています。また、昨年、南泉州地区病病連携協議会を立ち上げましたが、病病連携のみならず、病診連携、在宅医療や介護の分野の地域連携も南泉州地域全体で推進する必要がありますと考えています。

りんくう総合医療センターでは泉州救命救急センターと統合して1年が経過致しました。専門医療と救急医療が融合した質の高い医療を提供できるように、取り組んでいるところですが、依然として消化器内科や呼吸器内科を始め医師の不足する部門があり、さらに人材の確保に努める所存です。一方、初期研修医は4年連続でフルマッチとなり、また看護師不足も少しずつ解消しつつあります。若い人材の育成にも力を入れています。今年度中には研修棟を建設し、多くの方が利用できるように準備をしているところです。

今後とも職員が力を合わせて地域医療の発展に貢献したいと思っております。皆様方の御指導、御協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

CONTENTS

表紙写真:京都府洛北 原谷苑	1	「部門紹介」 心臓センター / 地域医療連携室	4
「南泉州地域全体で支え合う 医療連携の実現に向けて」 病院長 伊豆蔵 正明		りんくう医療ネットワーク登録医の先生のご紹介	5
「理事長メッセージ」 理事長 八木原 俊克	2	医療法人晴心会 野上病院	
「新入職員紹介」	3	TQM大会 / スプリングコンサート / 公式Facebookページ	6
		/ 編集後記 / 人権標語	

理事長メッセージ

平成26年度の展望と課題



地方独立行政法人
りんくう総合医療センター理事長

八木原 俊克

平成25年度におけるりんくう総合医療センター最大のイベントは、大阪府立泉州救命救急センターとの統合でした。1年以上の準備期間を経て両センターの職員が一丸となった新しい体制作りの成果として、救命・救急診療のみならず、関連する多くの専門診療に効率化と質の向上をもたらしました。運営上まだ若干の課題を抱えておりますが、院内における診療科間、職種間における診療・教育などの連携・協働体制の強化という副次的な効果も得られ、病院全体の活性化に大きく寄与しています。

平成26年度に入り、新しく開設して1年になる総合内科・感染症内科をはじめ、幾つかの診療科で医師数が増加し、救命ICUを含めた病床フル稼働に必要な看護師などの職員確保が整い、さらには事務局幹部の人事刷新等もあり、新たな気持ちで再出発したところです。

今年度における課題としては、稼働し始めたばかりのなすびんネットの進展と今年度中に予定している研修棟の開設、等があります。しかしながら、それ以上にインパクトがあるのは、診療報酬改定、消費税への対応です。

7対1入院基本料条件改訂と一般病床の機能分化など、今後の医療法改正をにらんだ段階的改訂と思われるものがある一方、診療録管理体制加算要件に退院サマリー記載率が加わり、特定集中治療室管理料要件に臨床工学技士の関与増強が盛り込

まれたり、処置や手術の時間外加算要件に当直翌日の勤務免除が絡む等の意図は、よりきめ細かな診療を確保すると共に、多職種連携を強化すること等により、医師・看護師をはじめとした医療従事者全体の過剰労働対策推進を示唆した内容になっていると理解するべきなんでしょう。

いずれにせよ、2年後の診療報酬改定と医療法改正も意識しながら、泉州南部地域における地域完結型の医療を目指して、地域の皆様方と一緒に考えさせて頂きたいと切に願っております。

これまで以上の皆様方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

りんくう総合医療センター 基本理念

納得と安心感を与える医療を実践します

良質で適切な医療を提供します

医療活動を通じて社会に貢献します

日本医療機能評価機構(3rdG: Ver.1.0) の認証を受けました。

医療提供のしくみやサービスを向上させ、患者様がもっと安心してかかれる病院になるために、当院は第三者評価を受けました。よりよい医療を提供できるよう、これからもスタッフが一丸となって取り組んでいきます。



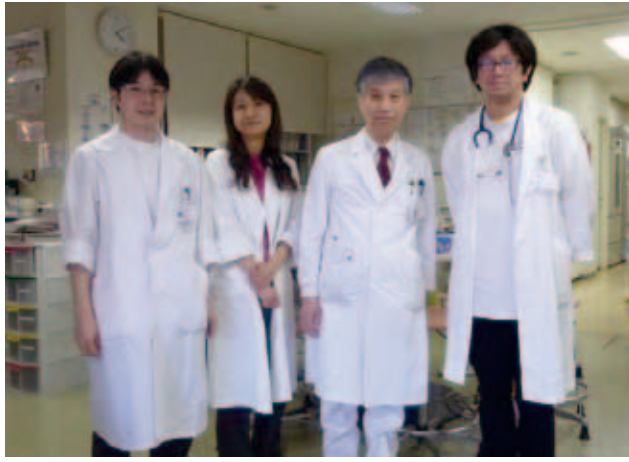
新入職員紹介

血液内科

科長兼輸血部長

福島 健太郎

はじめまして、4月より血液内科で勤務しております福島健太郎と申します。血液内科はこの春常勤2名・非常勤2名と増員しパワーアップしました。白血病、リンパ腫や出血性疾患等幅広く治療可能な体制となり、再スタートをきっております。泉佐野や近隣にお住まいのみなさまに、「ここで治療を受けて良かった。」と思っていただけのように、一生懸命頑張っていきたいと思えます。よろしくお願ひします。



眼科

科長

林田 素子



4月より村井克行医師に替わり、布谷健太郎医師を新たにお迎えしました。眼科は糖尿病内科や循環器内科をはじめ、形成外科や小児科、救命診療科など他の多くの科との関連が深く、相互に密に連携を取り合いながら、未熟児から超高齢者に至るまでの患者様に対して眼科全般の診療をおこなっています。特に白内障手術は大体3ヶ月待ちの状態となっており、「早く手術を受けたい」という患者様の御期待に少しでも沿えるよう、努力していく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひいたします。

ご挨拶

事務局長

細谷 進



この度、国立病院機構大阪南医療センターから参りました細谷(ほそや)と申します。

国立病院機構では11の病院、療養所で勤務させていただきましたが、今はもう廃院となった貝塚の千石荘病院で勤務していたこともあり、泉州二次医療圏は二度目となります。

今回、当センターで勤務させていただくことになり、これまでの経験を生かして患者様を始め職員の方々の笑顔が少しでも増えるよう頑張りますので、よろしくお願ひします

総務部長

藤原 正則



気分一新

皆さんはじめまして 4月から総務部長として勤務をすることになりました藤原です。

市役所内の異動とは違い新しい職場環境なので、少し戸惑いもありますが、早く仕事に慣れ、お役に立てるように頑張ります。趣味は、映画観賞とサッカーの試合を観ること(専らTV中継で、今年ワールド・カップが楽しみです)、秋には地元のだんじり祭りにも参加しております。「市民のいのちと健康を守る」重要な仕事、微力ですがどうぞ宜しくお願いします。

Welcome to RGMC



4月3日、りんくう総合医療センター大会議室にて **新入職員歓迎会** が開かれました。

食事と飲み物をいただきながら、和気あいあいと職員同士、交流を深めました。



心臓センター

部門紹介①

副病院長・心臓センター長 永井 義幸

心臓血管病は急性心筋梗塞や急性心不全、危険な不整脈などの緊急対応に加えて、その後のベータ遮断剤やACE阻害薬などの十分な投与量の標準治療の導入、禁煙や運動療法、肥満の是正などの生活習慣の改善、糖尿病、脂質異常症、高血圧の管理などを含めた2次予防（再発予防）までの幅広い対応がされてはじめてその短期・長期の治療成績



の改善が得られます。従来の循環器内科、心臓外科といった縦割りの専門分担だけでは当然のことながら対応しにくく、そのため多職種のチーム医療が求められてきております。当院でも医師は循環器内科、心臓血管外科、救命診療科および看護局（7階山心臓病棟、4階ICU/CCU病棟、救命救急センター、救急外来、放射線科、手術室）、リハビリテーション部門、臨床検査技師（超音波）、放射線技師、臨床工学技士、MSW（医療ソーシャルワーカー）、メディカルクラーク（医師事務作業補助員）などの多職種の連携のもとチーム医療を展開しております。まだまだこの地域での増え続ける高齢者の心臓疾患にどう対応するかは非常になやましい問題です。救命できたあとも地域のかかりつけ医の先生や病院と病診連携・病病連携をすすめ、また介護や訪問看護などの制度も活用いただき、少しでも再入院せずに社会生活を送れるように職員一同努力してまいります。

地域医療連携室

部門紹介②

地域医療連携室 前田 廣明

地域医療連携室は、病院内と院外をつなぐ窓口の役割を担っており、地域の医療サービスを効率よく運用することを目指して業務に取り組んでいます。具体的な業務内容の一部を紹介します。

紹介予約受付業務

地域の医療機関からの予約取得、案内を行います。緊急の紹介依頼に関しても窓口となり、できる限り迅速な調整を心がけています。

広報活動

地域住民様を対象として毎月開催している「市民健康講座」、地域の医療従事者や当院の研修医を対象とした「臨床集談会」、地域医療機関との連携強化に向けた会議の企画・運営などを行っております。

医療相談業務

医療ソーシャルワーカー（Medical Social Worker）を配置し、様々な相談業務に携わっています。入院患者様の転院調整を含めた退院支援、患者様が抱える経済的不安や問題に対する相談業務、介護保険制度などの社会資源の利用についての相談や公的機関との連携等、様々な相談に対応しています。

「かかりつけ医」の推進

当院は「りんくう医療ネットワーク」という登録医制度を設けています。登録医は当院ホームページ上の登録医一覧に掲載させて頂き、希望される先生については院内ロビーに登録医パンフレットを設置しています。「かかりつけ医」を持つことを推進し、より円滑な紹介・逆紹介を目指しています。

また、今年4月からは診療情報ネットワーク「なすびんネット」の運用を開始しました。現在はりんくう総合医療センター、阪南市民病院、市立貝塚病院に受診歴のある患者様の処方内容や画像データを、患者様の同意の上、地域医療機関の先生方がインターネット回線を介して閲覧できるシステムです。よりスムーズな情報共有を図ることができ、地域医療連携の発展につながると期待しています。

泉州南部は医療資源が乏しい地域とされており、急性期から回復期、在宅医療まで切れ目のない医療を地域全体で提供する「地域完結型医療」が必要とされています。そのためには各医療機関がそれぞれの持つ強みを発揮し、相互補完することで地域全体の医療サービスの質を向上させる必要があります。当室は泉州南部における基幹病院として、近隣の各医療機関との連携を最前線で行う部署として今後も積極的に業務に励んで参ります。



りんくう医療ネットワーク
登録医の先生のご紹介

登録医の先生をご紹介します。当院では「かかりつけ医」と連携協力し、地域ぐるみで質の高い医療サービスの提供を推進しています。

連携病院紹介

地域に根ざした医療を求めて



医療法人晴心会 野上病院
理事長・院長 野上 浩實

風光る、生命が息吹く季節となりました。この度はNICE SMILEの「連携病院紹介」欄へ投稿のご依頼があり、病院紹介させて頂きます。

野上病院は昭和55年4月1日、胃腸科中心30床の病院として開設され、以後増床し現在は163床の病院(急性期、回復期、亜急性期、医療療養型を備えたケアミックス型)となっています。また「のがみ泉州リハビリテーションクリニック」も併設、こ

こでは整形外科と腎センターを担当し19床の病床を備えています。病院では外科、内科、リハビリテーション科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、脳神経外科など15科目を標榜し、専門外来として、糖尿病外来、循環器外来、肝臓外来、腎臓膠原病外来、肛門外来、禁煙外来、リウマチ外来があります。

また当院は開設当初より消化器疾患に力を入れ、内視鏡センターを立ち上げ、年間約1500例の上部、下部内視鏡検査、胆膵内視鏡検査を行っています。一方でりんくう総合医療センター(りんくう)との連携を強化し、重症例をりんくうへ紹介することで、患者さんに安心感を持っていただけるように心がけています。また当院では、回復期リハビリテーション病棟を50床備え、脳卒中や骨折後の身体障害に対し、質の高いリハビリを行い、早期に社会復帰できるような設備、人的資源(理学療法士31名、作業療法士11名、言語聴覚療法士4名)を充実させています。病院の理念は「病を癒すだけでなく、誰もが安心と幸せを感じられる医療を提供

する」となっており、基本方針として 1. 納得のゆく説明 2. 患者様本位の医療 3. 徹底した安全管理 4. 質の高い医療の提供を挙げています。地域に開かれた医療を提供する事業の一つとして、年1回「のがみ健康フェスタ」を開催し、地域住民の皆様のために、健康相談、栄養相談、血圧測定などを行い、またゲームや軽食コーナーも設け、楽しみながら健康増進に努めています。

一方、来るべき高齢化社会に備え、当院では、デイケアセンター、グループホーム、認知症デイサービス、サービス付き高齢者住宅(富士桜)、訪問看護ステーション、ケアプランセンターなどを立ち上げ、昨年より機能強化型在宅療養支援病院を届けています。これからは地域の中で多職種連携のもと、病診連携、病々連携をはかりつつ、安心できる医療と介護が、受けられるように努力していきたいと思っています。末尾にこのような病院紹介の機会を与えて頂いたりんくう総合医療センターの理事長八木原俊克先生をはじめ皆様に感謝申し上げます。



リハビリ用プール



サービス付き高齢者住宅(富士桜)

医療法人晴心会 野上病院

〒590-0521 泉南市樽井1-2-5
【TEL】072-484-0007
【病床数】163床

【診療科目】

内科、外科、循環器内科、脳神経外科、
整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、
泌尿器科、リハビリテーション科、リウマチ科、
放射線科、肛門外科、麻酔科、消化器外科

【診療時間】

	月	火	水	木	金	土	日・祝
AM	○	○	○	○	○	○	×
PM	○	○	○	○	○	×	×

第13回 TQM大会

口頭発表：2014年2月14日（金）17:30～
ポスター展示：2月7日（金）～2月17日（月）

病院ではいろんな職種のスタッフが働きチームで医療を展開しています。



口頭発表

また各職場では、患者・家族の皆様へのサービスの向上、日常業務の効率化、改善に現場の視点を活かし取り組んでいます。その成果の発表会として、第13回TQM大会が開かれました。活発なポスター発表、口頭発表が行われ、厳正な審査のうえ、優秀なチームは表彰されました。



ポスター展示発表



スプリングコンサート

2014年3月8日 14:00～15:00

7階海側病棟で勤務しております看護師の堺と申します。

先日はスプリングコンサートに大勢の方に足を運んで頂き、またたくさんのスタッフの方々にもお手伝い頂きありがとうございました。

『りんくう Liebe』について少し御紹介させていただきます。『りんくう Liebe』は当院乳がん患者会「すみれ会」のメンバーが結成したコーラス隊です。ではどのようにコーラス隊が結成されたのか。それは数年前、すみれ会の忘年会で現在もご指導頂いている川上先生が歌って下さる機会がありました。その時もスプリングコンサートのように最後にみんなで合唱しました。



「歌うって楽しいね」「気持ちいいね」「私たちも歌いたい」という思いを現実にし、結成されました。メンバーのほとんどは治療中の方や、経過観察中の方です。今までに仲間を亡くした事もありました。辛い治療やたくさんの悲しい出来事を乗り越えた彼女たちは常に前を向き、笑顔を絶やしません。そして自分たちだけでなく周りの人たちも元気になってもらいたいという思いで選曲し、練習に励んでいます。そんな彼女たちの歌声だからこそ聞いてくれる人たちの心に響くのだと私は思います。私はそのメンバーの一人としてコーラスに参加させて頂いていることを大変嬉しく思っています。

最後に『りんくう Liebe』ではメンバーを広く募集しております。患者会とは関係なくどなたでもご参加頂けます。日時は毎月第2・4火曜日 18:30～、祝日曜（不定期）の計3回です。ピアノの音色と歌声に誘われてお気軽に練習をのぞきにきて下さい。

7階海側病棟 堺 美紀

編集後記

さわやかな風が心地よい季節となりました。当院では4月に多数の新職員を迎え、心新たにスタートしました。今回57号となるNICE SMILEでも一部職員をご紹介させて頂いています。

当院は昨年度、財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、認定されました。この第三者機関による評価は、私自身あらためてチーム医療の重要性を認識する機会となりました。私が勤務するNICU/GCUにおいても、児や家族に安心・信頼して頂く医療、看護を提供するためには、医師・看護師の連携は当然のことながら、周産期センターとして産婦人科や外来部門、地域の保健師など多種多様な部門との連携が必要です。今年度新たに迎えた仲間とともに、さらにチームワークを深め、頑張っていきたいと思っています。本誌では、地域連携に関する情報も複数掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

編集委員（NICU/GCU看護師長） 西出 あや子



りんくう総合医療センター
公式Facebookページ

を開設いたしました。

様々な活動のご報告や、職員のたくさんの笑顔をお届けいたします。



人権標語

「人権はみんなが持つもの守るもの」

